

# ダニエルの書 - 第百九十四号

マカバイの余響：トランプの勝利と獣の像への預言的な道筋

Jeff Pippenger

2024-04-24

マカバイ家に代表される陣営（米国の背教的プロテスタントを指し示す）は、紀元前167年、モデインでギリシア宗教に対する反乱を開始した。マカバイ家はそこで、アンティオコス・エピファネスがユダヤ人にギリシア宗教を強制しようとする企てに打ち勝ち、アンティオコスと協力していたユダヤ人の指導者も殺害した。こうして、2024年の選挙では、「宗教右派」として知られる投票ブロックによってバイデンは敗北する。歴史は、2024年の選挙の勝利を、背教的プロテスタント主義が、RINOと呼ばれるグローバリストの共和党員だけでなく、無神論的な民主党が国民にウォークイズムという宗教を強制しようとする試みにも打ち勝つこととして描いている。

マカバイの系譜に象徴される内なる霊的な戦いは、裕福な大統領がグローバリズムの竜の勢力を呼び覚ました2015年に始まり、二人の証人を殺害するという竜の働きには、2021年1月6日に関するペロシ裁判が含まれていた。モデインとマカバイの反乱は、2024年11月5日に背教的プロテスタンティズムが将来勝利することを示している。2025年1月20日の就任式は、第二神殿の再奉献を表す紀元前164年によって型取られており、まさにその年（紀元前164年）にアンティオコス・エピファネスは死んだ。アンティオコスは民主党と、共和党員を自称する彼らのグローバリストの仲間を表しているが、彼らは少女が少年であるのと同じくらいMAGA共和党員ではない。

13節から15節に表され、パニウムの戦いで締めくくられる政治的闘争は、その歴史におけるウォーク主義と背教的プロテスタンティズムの間の宗教的闘争と並行して進む。紀元前164年の第二神殿の再奉献で表される2025年のトランプの就任の後、彼は背教的プロテスタント教会を自身の背教的共和党政権と結び合わせることによって、獣の像の実際の形成を開始する。これは、紀元前161年から同158年までのローマとマカバイの同盟で表されている。トランプは教会と国家を同盟関係にまとめ上げ、宗教的要素が主導権を握る体制にする。カトリックの獣の像を地の獣が形成するという預言的歴史において、背教的共和党の角と背教的プロテスタントの角は、永遠のいのちの問題において誤った側に立ちながら、彼らの猶予期間の杯を満たすことになる。

紀元前164年の第二神殿の清めで象徴される就任の時から、獣の像を形成する働きが始まる。それは、紀元前161年から紀元前158年にかけてのユダヤ人とローマの同盟によって象徴されている。トランプは2024年11月5日（紀元前167年）に再選され、就任式（紀元前164年）において、1989年の「終わりの時」以来の第八代大統領となる。こうして彼は「第八であり、七つのうちの一つ」となり、日曜法においてその致命的な傷が癒されるとき、聖書の預言における第八の王国となる教皇権の獣を映し出す。彼の就任は、紀元前164年のマカバイ家による第二神殿の再奉献によって象徴されている。マカバイの反乱はその三年前、モデインという町で始まり、その名は「抗議」を意味し、2024年11月5日の彼の選挙勝利を指し示している。

紀元前164年、第二神殿の再奉獻が行われ、これが2025年1月20日のトランプの再就任式を象徴している。その時点で彼は正式に、彼以前の七人のうちに数えられる第八の大統領となる。紀元前164年は、ユダヤ教において第二神殿の再奉獻を記念する年とされている。

就任式とは、トランプが第八、すなわち七つに属する者となる場であり、その時点以降、獣の像を形成する働きを支えるサタンの奇跡が起こるようになる。八は、よみがえった獣の像の象徴であり、その時点で像の形成が始まる。これは紀元前161年によって表されている。

獣の像の形成はまずアメリカ合衆国で成し遂げられ、その後その獣の像が世界全体に強制される。アメリカ合衆国が、語り、また獣の像を拝まない者は皆殺されるようにする獣の像を世界に受け入れさせることを強制し始める時点で、アメリカ合衆国はちょうど日曜法を可決し、三重連合を形成しているだろう。日曜法の時には三重連合が整っており、サタンの驚くべき働きの時が到来する。このときサタンはキリストを装い、奇跡を行って、世界に獣の世界規模の像と日曜礼拝を受け入れさせる。その時点でトランプが十人の王たちの指導者となる。

このように、間もなく到来する日曜法のときの三者連合において成就する、十人の王たちの筆頭としてのトランプの就任は、2025年1月20日に「七に属する第八の大統領」としてのトランプの就任によって予表されていた。米国における獣の像の形成を締めくくる日曜法においては、法王制の獣もまた「七に属する第八」となる。したがって、獣の像の試みの時は、トランプが「七に属する第八」となることから始まり、その期間が終わるときには法王制もまた「七に属する第八」となる。というのも、アルファとオメガは始まりによって終わりを示すからである。

トランプの就任式に、獣の像の形成の期間が始まり、サタンの奇跡が始まる。そしてそれは、アメリカ合衆国における獣の像の形成の期間の終わりに始まるサタンの驚くべき働きをも画する。トランプの就任はその期間の始まりを画し、国際連合の十人の王のうち第一の王としての彼の就任はその期間の終わりを画する。始まりと終わりのいずれの就任も獣の像の形成を開始させるもので、まずアメリカ合衆国で、次いで全世界でそうなる。

同盟の働き、すなわち紀元前161年から158年に起こったローマとの結束は、この歴史を特徴づけており、それは16節における日曜法で結末を迎える。教皇制度の像である政府を打ち立てるための最終的な働きは、獣の像の形成として始まり、背教的プロテスタントが彼の政治的勝利に際して与えた政治的な貸しを返す形で、トランプによって推し進められる。

この予言的な枠組みは、四十節の隠された歴史に当てはめられる。ダニエル書十一章の二節から三節に至る隠された歴史も、その枠組みに当てはめられる。黙示録十一章の二人の証人の予言的歴史も、同様にその枠組みに当てはめられる。これら三つの筋を四十節の隠された歴史の中で結び合わせることによって、ユダ族の獅子は、終わりの時まで封じられていたダニエル書の預言の一部の封印を解いておられる。

町でラッパが吹き鳴らされて、人々が恐れないことがあるか。町に災いが起こって、それをなさるのが主ではないということがあるか。まことに、主なる神は、その

しもべである預言者たちにご自分の奥義を示さずに、何事もなされることはない。獅子がほえた。誰が恐れないだろうか。主なる神が語られた。誰が預言せずにいられようか。アシュドドの宮殿で、またエジプトの地の宮殿で、こう告げよ。「サマリアの山々に集まれ。そのただ中の大いなる騒乱を見よ、またそのただ中の虐げられている者たちを見よ。」アモス書 3:6-9

ダニエル書11章40節の秘められた歴史の中に示されている、解き明かされたメッセージこそ、封印のメッセージである。アモスは、町でラッパが吹き鳴らされることや獅子がほえることについて修辭的な問いを投げかけ、さらに「主は、僕なる預言者たちに先にそれを明かさないと何事もなさない」と述べて答えを与える。彼はまた、神への畏れを生じさせることを意図したラッパのメッセージが、町の中の悪をも指し示し、それがアシュドド、エジプト、サマリアで公にされるべきであったことを含めている。これらは現代バビロンの三重の構成を表している。封印のラッパのメッセージは、封印のメッセージに示された出来事に先立って、全世界に宣言されるはずであった。封印のメッセージであるそのラッパのメッセージには「真理」という署名がある。というのも、封印の時は、第三の災いのラッパの三度の吹鳴の上に組み立てられているからである。

最初のラッパは2001年9月11日に封印の始まりを示し、最後のラッパは、まもなく来る日曜法において封印の終わりを表すが、そのとき大地震において第三の災いが突如として到来する。中間の吹鳴は2023年10月7日に起こり、古代の栄光の地が第三の災いのイスラムによる奇襲を受けたが、それは2001年に現代の栄光の地が第三の災いのイスラムによる奇襲を受けたのと同様であり、また、まもなく来る日曜法におけるそれら三度の吹鳴の最後にも同様となるだろう。古代の栄光の地へのその中間の奇襲は、文字どおりのイスラエルに対するものであり、それはメシアを十字架につけた反逆の象徴である。

アモスのラッパのメッセージは全世界に向けて発信されることとなり、そのメッセージを公表する働きは2023年7月末に始まった。そしてユダ族の獅子が吠えた。誰が恐れないだろうか。さらに、十四万四千人の封印の時に関わる出来事が、今や地球全体で次々と明らかにされつつあることを、誰があえて否定できようか。これらの記事は現在、120を超える国々、60を超える言語で提供され、読むことも音声で聴くこともできる。

この預言のことばを読む者と、これを聞き、その中に書かれていることを守る者たちは幸いである。時が近いからである。ヨハネの黙示録 1:3

祭壇からの火が祈りと香と混ぜ合わされ、第七の最後の封印が解かれて地に投げ込まれると、声と雷鳴と稲妻と大地震が起こった。大地震は、エゼキエル書9章で嘆き叫んでいる聖徒たちの上に、真夜中の叫びのメッセージが火として投げ下ろされることの結果としてもたらされる。ペンテコステのときに火が下ったのと同じように、その火は、その後あらゆる国民、部族、言語、民に運ばれていったメッセージを象徴していた。ちょうどこれらの記事がそうであるように、その火はまた、そのメッセージを多くの言語で伝える能力をも象徴していた。ちょうどこれらの記事がそうであるように、これらの記事は、これから起こることを前もって示している。主は、まずご自身の預言のことばを通してご自身の働きを明らかにし、そのうえでしか何事もなさないからである。

天よ、聞け、私は語る。地よ、私の口の言葉に耳を傾けよ。私の教えは雨のように降り、私の言葉は露のように滴る。若草に降る細雨のように、草の上に注ぐにわか雨のように。私は主の御名を告げ知らせる。われらの神に偉大さを帰せよ。彼は岩、その御業は完全。彼の道はすべて公正。真実の神で、不義はなく、正しくまっすぐなお方である。彼らは自らを墮落させた。彼らの汚れは彼の子らの汚れではない。彼らはよこしまと曲がった世代である。申命記 32:1-5

「『後の雨』の『教理』は、今や主によって公表されており、『真夜中の叫び-後の雨』のメッセージを形作る教理は『主の御名』に基づいている。その御名は『真理』である。主はパルモニ、すなわち驚くべき数を数える方であり、また驚くべき言語の達人であり、アルファでありオメガであり、神の子であり人の子であり、大祭司であり、ユダ族の獅子であり、そして大天使ミカエルである。キリストのこれらすべての御名は、恩恵期間が閉じられる直前に封印が解かれるイエス・キリストの啓示の不可欠な一部であり、また2023年7月末以来、世界中で発表されてきた記事の不可欠な一部でもある。『耳のある者は、御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』」

ユダの部族の獅子、すなわち七つの封印で封じられた巻物を開く権利を勝ち取られた方が、いま、1844年10月22日のときと同じように泣いておられる。誰が恐れずにいられようか。

彼は獅子がほえる時のように大声で叫んだ。彼が叫ぶと、七つの雷が声を発した。七つの雷が声を発し終えたとき、私は書き記そうとしたが、天から私にこう告げる声を聞いた。「七つの雷が語った事柄を封印し、それを書き記してはならない。」黙示録 10:3、4。

ダニエル書十一章四十節の隠された歴史に符合する聖なる歴史は、マタイの福音書二十五章の十人のおとめのたとえ、黙示録十章の七つの雷、ハバクク書二章、そしてエゼキエル書十二章二十一節から二十八節の成就としてのミラー派の歴史である。彼らの歴史は終わりの時である1798年に始まり、それは1989年の終わりの時と一致する。黙示録十章では七つの雷がその声を発したが、ヨハネは七つの雷が語ったことを書き記すことを禁じられた。使徒パウロもまた、第三の天で、人が書き記すことを許されていない事柄を見聞きした。

使徒パウロは、キリスト者としての経験の初期に、イエスに従う者たちに関する神の御心を学ぶための特別な機会が与えられた。彼は「第三の天に引き上げられ」、さらに「樂園に引き上げられ、人が語ることを許されていない言葉を聞いた」。彼自身、多くの「幻と啓示」が「主から」自分に与えられたことを認めている。福音の真理の諸原則に対する彼の理解は、「最もすぐれた使徒たち」に劣らなかった。コリント人への第二の手紙 12:2, 4, 1, 11。彼は「知識をはるかに超えたキリストの愛」の「広さ、長さ、深さ、高さ」を明確かつ十分に理解していた。エペソ人への手紙 3:18, 19。使徒行伝, 469。

すべての預言者は終わりの日を指し示している。また、七つの雷が「声を発した」ときにヨハネが聞いたことについては、彼はそれを書き記すことを禁じられた。第三の天にいたときにパウロが目撃したことについても、彼は人が「口にする」ことを許されない事柄

を知らされた。「七つの雷」によって表される真理は、ユダ族の獅子がその真理の封印を解くことを選ばれるまで、封じられていることになっていた。

それはホワイト姉妹に対して部分的に封印が解かれた。というのも、彼女は、それが第一と第二の天使のメッセージの歴史において「起こる出来事」を表し、さらに「順序に従って明らかにされる将来の出来事」をも表していると認識したからである。このとき明らかにされたのは、「将来の出来事」に関する予言であった。また、「七つの雷」の封印は、ダニエル書の封印によって象徴されていると、彼女は教えられた。

七つの雷の中に表された、ヨハネに与えられた特別な光は、第一と第二の天使のメッセージのもとで起こるであろう出来事の描写であった。……

この七つの雷がその声を発したのち、小さな書について、ダニエルと同様に、ヨハネに命令が下る。「七つの雷が語った事柄を封じよ。」これらは、順を追って明らかにされる将来の出来事に関するものである。セブンスデー・アドベンチスト聖書注解 第7巻、971ページ。

「Seven Thunders」が、「line upon line」という方法論こそが「後の雨」のメッセージであることを証明し、それを支持する象徴であるという理解は、1989年に始まった終わりの時に認識された。しかし2001年9月11日以降、二つの運動の反復の重要性が、現在の試金石となる真理とされた。

十四万四千人の歴史においてミラー派の歴史が再現されるという主要原則がその日に確認され、これは、ミラー派の主要原則が1840年8月11日に確認されたのと同様であった。ミラー派にとっては、一日が一年を表すという主要原則が1840年8月11日に確認され、すべての改革運動が互いに型をとり合っていることを識別する「行に行を重ね」という主要原則は2001年9月11日に確認された。その真理の証しとして、「七つの雷」はその時に封印が解かれた。

イエスは常に、物事の終わりをその始まりによって示される。そして、封印の過程の始まりである2001年9月11日は、その封印の過程の終わりを指し示している。ユダ族の獅子は、2023年7月に干からびた死骨をよみがえらせ始められたとき、「七つの雷」の別の側面の封印が解かれた。というのも、そのとき主は、「真理」に一致して、「七つの雷」がまた、最初と最後の失望に関するミラーライト運動の歴史を象徴的に表し、その中間の道標が「真夜中の叫び」に対する反逆であることを明らかにされたからである。

こうして、彼は、「七つの雷鳴」が、2020年7月18日から間もなく到来する日曜法に至る歴史の中で繰り返されることを明らかにした。封印の時の終わりにおける「七つの雷鳴」を指し示す「真理」の三つの道標のうち、2020年7月18日の失望が第一の道標であり、間もなく来る日曜法の失望が最後の道標である。このことは、彼が封印を解き、そのメッセージを地球全土に広めながら今ほえ叫んでいるユダの部族の獅子のメッセージを退ける愚かなおとめたちに結びついた反逆によって表されている。というのも、そのメッセージこそ、終末の時代における「真夜中の叫び」のメッセージだからである。

封印の時の始まりである2001年9月11日に、黙示録18章の天使が降臨し、いくつかの事柄の中でも、「七つの雷」の意味について、より完全な理解を開示した。当時「七つの雷」

について理解されたのは、改革運動が互いに並行するというだけでなく、改革運動のその道標において天使が降臨したとき、各々の歴史における主要な預言の規則が確認されるということでもあった。

2001年9月11日に黙示録18章の天使が降臨したことは、初め（またはアルファ）の運動が終わり（またはオメガ）の運動を描き出していることを示すことによって、「line upon line」という後の雨の方法論を確認した。封印の時期の終わりに、ミカエルは降臨して干からびた骨をよみがえらせたが、それは、ソドムとエジプトと呼ばれるあの大いなる都、そこでは私たちの主も十字架につけられたが、その大通りで死んでいた二人の証人によって表されていた。ミカエルが死者を命に呼び戻したとき、ユダ族の獅子としての彼は、「七つの雷」が、これまで七つの雷について明らかにされていた真理を超える隠された歴史を有していることを、封印を解いて示した。

そしてユダ族の獅子がその真理の封印を解いたとき、彼はそれを「真理」の構造の中に置いた。そのとき、2020年7月18日が1844年4月19日と対応しており、それらの道標のそれぞれの後に「真夜中の叫び」のメッセージの封印が解かれ、これによってそれぞれの歴史における愚かな乙女たちの反逆が明らかにされることが示された。彼はまた、そのメッセージが津波のように世界中を駆け巡り、日曜法が施行されるという大失望に至るまで続くという事実の封印も解いた。

次回の記事でこの研究を続けます。

彼は私に言った。「この書の預言のことばを封じてはならない。時が近いからである。不義な者はなお不義を行い、汚れた者はなお汚れたままでおり、義なる者はなお義を行い、聖なる者はなお聖くあれ。見よ、わたしはすぐに来る。わたしの報いはわたしと共にあり、おのおのにその行いに応じて与える。わたしはアルファでありオメガである。初めであり終わりであり、最初の者であり最後の者である。」ヨハネの黙示録 22:10-13.